

第1回 栃木県立益子芳星高等学校 学校運営協議会 報告

開催日時 令和4年6月22日(水) 14:00~16:00

開催場所 本校会議室、各教室 等

出席委員 岡 良一郎 佐久間藤也 加藤 義勝 永嶋 祐子
篠原 泰三 佐藤 広志 君島 芳一

1 開会

2 学校長挨拶

昨年度に引き続き8名の皆さんに委員を引き受けていただきありがたい。今年度もコロナ禍で様々な制約がある中で、生徒の安全安心を第一に考えて行事を行っていききたい。6/2の球技大会は応援方法などを工夫して実施し生徒も満足していた。これからも気を緩めず感染防止対策をしながら学校を運営していく。

3 栃木県教育委員会挨拶

社会に開かれた教育課程、新学習指導要領が開始された。生徒を取り巻く状況は複雑化している。益子芳星高校はこれまでの活動がたくさん新聞等に取り上げられている。色々な課題に地域と一体となって取り組んでいって欲しい。

4 出席者紹介

紙面にて

5 確認及び承認

- (1) 会則の確認 資料1、2のとおり。事務局の構成に主幹教諭を追加
- (2) 委員の確認 資料3のとおり
- (3) 会長・副会長の選出、承認、挨拶

6 報告事項

- (1) 令和3年度活動状況報告 資料4のとおり
- (2) 本校の現状と課題について

○本校生徒の状況

生徒は殆どが近隣の生徒。昨年度は例年に比べて就職者が多かった。進学者は専門学校に進む生徒が最も多い。公務員希望者の中で益子未来大学を受講し、行政の立場から町づくりに貢献したいと益子町役場へ就職した生徒がいる。

○本校の特色

① 進路実現のための多彩なコース制

今年度の入学生からコースをわかりやすくする為に6コースに増やした。本日1年生全体でコースガイダンスを行っている。

② 将来に役立つライセンス教育 資格取得の奨励

漢検・英検・数検の他にビジネス文書や簿記など商業系の資格も取得できる。

③ 地域とのつながりを大切にする地域活動・社会貢献活動の充実

町と連携し、「未来を創る高校生地域連携・協働推進事業」の2年目である。

○今年度の新たな取り組み

全国的に部活動離れ、運動部離れが進む中、もう少し加入生徒を増やして定着率を高めたい。今年度は従来の部活動見学ではなく「部活動体験」に変更し、全員何らかの部活を体験してもらった。数字的に見てその取り組みが大きな効果をあげたかは疑問である。

しかし、陸上部の女子生徒が200mで関東大会に出場し自己ベストを出すことができた。男子サッカー部はベスト16まで進み、実力が他校に認められてきた。女子バレー部など人数が少なかったが、1年生が入部することによってメンバーがそろいチームとして大会に出場できるようになるなど、これからの活躍に期待したい。

○本校の課題

① 入学志願者の確保

中学生の数が減ってきている中、人を集める工夫を考える。

② 特色化の充実

人を集めるために特色化の充実

③ 積極的な情報発信

近隣にもっとアピールしたい 資料5-3に記載している取り組み以外にも、真岡鐵道の駅舎清掃や、陶器市ボランティアなどコロナ禍でなければ実施できた取り組みも多い。

7 協議

(1) 令和4年度学校運営方針について

印がついている箇所が最も重点とするところ。特に家庭学習ゼロ時間解消のために、一つの教科だけが頑張るのではなく、教科間・学年で連携し、少しでも多く机に向かう時間を増やす。

- ・小・中学校は土日の部活は民間委託などを行っている。高校はどのようになっているか。教員のワークライフバランスはどのようか。
- ・部活によっては外部指導者が来ている部もある。休日に練習試合や大会があるので労働時間が長くなるが、その分は休養日を設けてもらうなどしている。

(2) 益子芳星高等学校の魅力化、特色化に関する意見交換

- 未来大学を見学して、生徒の目が違う。目標に向かっていく姿勢、意欲を感じた。家庭学習をなくすには、目的意識をはやく持たせればそれにむけて努力するのではないか。コロナ禍前は、星の宮フェスティバルに JRC 部や美術部が協力していた。3 年間未実施で残念。
- 星の宮フェスティバルに参加していた生徒は挨拶が良くできて感じが良かった。目的意識を持たせるのは大切である。1 年生のコース選択で目的意識を持たせるために工夫していることは？
- なかなか定まらずに、なんとなく選択する生徒もいる。部活や生徒会や地域とのふれあいなど、色々なプログラムを体験し、自分の居場所をみつけて欲しいと思っている。自分の居場所を見つけることが生徒の将来に繋がると思う。
- 佐野高校などはコーヒーラウンジなどを生徒自身が提案し、大人を巻き込んで学校自体を楽しくしていった良い事例がある。
- 高校生はまだまだ社会的経験が不十分。コース選択の前に現場で働いている職業人の話を聞く機会があれば参考になる。益子町が未来大学などで人的なサポートは十分していると思うが、県立高校だけではできないことを金銭的な面でサポートできると良い。
- 子供達は未来の財産。「未来を創る高校生地域連携・協働推進事業」の予算や使い道はどのようなになっているか。
- 視聴覚室のモニターの整備や講師の謝礼などの人件費などに使用している。
- 未来大学の 16 回の講座の中、町の職員の福祉担当や道の駅担当など多くの人員が活躍している。生徒はまち歩きをして課題を探し、課題解決に取り組んでいる。取組内容については、町民のつどいの場において一般の人の前で発表してもらっている。高校生が来ると大人も生き生きして、町行政にとってもやりがいを感じる。
- 小中学校はタブレットや洋式トイレやの普及など進んでいるが、上の学校にいけばいくほど不便になっている現状はどうなのか？
- タブレットは一人一台使用できる。トイレについては生徒が利用する教室棟のトイレは洋式になっている。
- ある番組で東北の三陸の高校が、高校の一教室を塾として活用しているのを見た。茂木高校も似たようなことをしている。地域が、地域になくてはならない高校として学校を応援している。1 年生のコース選択はどのような手順で決めるのか？
- 生徒は時期ごとに 2～3 回に分けて調査。9 月の学年部会では保護者

全体に説明している。人数の偏りは個別に説明し、調整。生徒の希望によって1つのコースが45人になったり30人になったりするが、人数ではなく生徒の希望を優先している。

- 長い期間をかけて決めるのは良い。友達につられることは多いと思うが、途中で変更できないのは大きい。学年主任の説明はわかりやすかった。
- 茂木は地域おこし協力隊を学習のために使っている。地域の学校を存続させるために町が頑張っている。
- 同窓会長という立場から、学校をバックアップしたい。先程の未来大学の見学で城内坂地区の話を見学した。自動販売機やカフェを増やすという案が出ていたが、生徒の目と大人の目は違う。土日はお客が来るけど平日は来ない。その辺を深く考えてくれると嬉しい。
青春時代は迷うことも多い。迷っている生徒の為の7コース目があっても良いのではないか
- 実際にそこで働いている人など、町の職員以外の視点を加えると、問題点に深みが出るのではないか。
- 今のところ、行政的な視点での問題提供である。生徒が発表してもそこでとどまっていることもある。現場に声を届け、つながる道筋をつくっていきたい。未来大学後のアンケート結果によると、座学の人気がない。大変でもプランをつくり、コミュニケーションをとる活動に魅力を感じてくれている。そういう良いところを伸ばして欲しい。
- 前向きな意見がたくさん出ていた。子供達がそういう姿を見せると嬉しい。失敗するかもしれないけど挑戦することが大切。町が高校を守る。町から高校がなくなることはつらい。生徒達の一生懸命に取り組む姿勢をみるともっと応援したくなる。

8 その他

第2回は11月9日の探究の発表会に合わせて実施予定。